



すぎなみ 環境ネットワークだより

URL <http://www.ecosuginet.jp/>

すぎなみ環境ネットワーク事務局 〒167-0051 杉並区荻窪 5-15-13 TEL 03-5347-2255
 あんさんぽる荻窪 4F すぎなみ環境情報館内 FAX 03-5347-2299
 杉並区リサイクルひろば高井戸 〒168-0072 杉並区高井戸東 3-7-4 TEL 03-3331-4360
 FAX 03-5336-7351

使わなくなった衣類の アップサイクルに挑戦しませんか

最近「アップサイクル」が注目されています。使わなくなった衣類が役に立ち、楽しみながら前向きな生活を送れるところに魅力があるようです。

あなたのアップサイクルをお手伝いする、すぎなみ環境ネットワークの活動をご紹介します。

アップサイクル・ビジネスが注目されています

昨年 10 月、NHKのクローズアップ現代で「アップサイクルの挑戦～動き出した循環型環境ビジネス～」という番組が放送され、話題になりました。

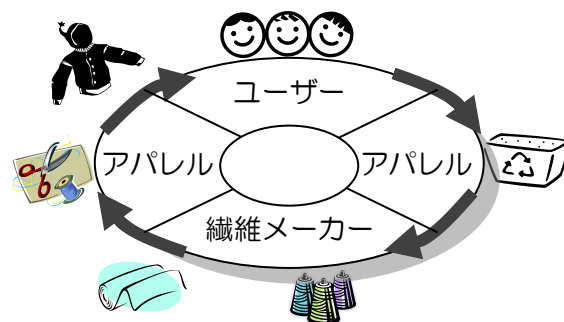
捨てられる服は年間 130 万トン。古着として販売されたり、ウエス（雑巾）などに加工されるものは 19%程度。残る 81%は焼却されているようです。

最新技術を使い、着古した洋服から新しい洋服を作りたい。ある大手繊維メーカーが挑戦した話が紹介されました。

ポリエステル製の古着を回収して工場で再生糸にする。布に織り、新しい衣服に仕立てる。技術が完成しても、ビジネスには結びつきませんでした。再生糸が 2～3割高かったからです。

最近、衣料のリサイクルに関心を持つ米国のアウトドアブランドと提携し、再生ポリエステルを使った新しいデザインの商品を開発。店舗には古着の回収ボックスを置きました。これでアップサイクルのシステムができあがり、ビジネスとして成果が上がるようになったそうです。

リサイクルが遅れている衣料の分野での新しいシステムとして注目されています。



ちょっとひと休み

アップサイクルとは

アップサイクルとは、廃棄物や使わなくなってきた古いものを回収し、デザインなどの力を借りて品質や価値、有用性の高い、新しいものを生み出すプロセスを言います。資源として再利用するリサイクルの一種と言えますが、その先を行く考え方でもあります。

日常生活の中でもアップサイクル

ビジネスだけではなく、日常生活の中でアップサイクルを楽しんでいる人もいます。作る喜び、完成の喜び、ものとしての価値があがった喜びなど、アップサイクルにはお金で買えない魅力があるようです。

日常生活を豊かに

「日傘を母の着物で作ってもらったら出不精の母が外出を楽しみにするようになった」こんな話を耳にしました。

着物地は素晴らしい素材です。おしゃれで、ファッショナブルに仕上がります。

作ってもらえるのは全国で数件の傘屋さん。注文が殺到し、2 年以上待たなければならぬようですが。



また、旗や傘などの古い布で作ったバッグを買った人は、「世界でひとつしかないものを持って歩くのは楽しい」と大喜び。

思い出のある着物や洋服を捨てるのは抵抗感があり、たんすの肥やしになりがちです。

自分用に作り直す。お孫さん用に作り直す。帽子や袋物などを作る。母から娘へ、そのまた子へつながっていく。

使う側はもちろん、使ってもらう側も、こころ豊かになることでしょ。

こうして、ものを大切にしようという気持ち、次の世代に伝わっていきます。

ちょっとひと休み

ジャンクアート

ジャンクアートとは、廃棄物やがらくたを用いて制作した芸術品のことです。大量生産・大量消費時代になった 1950 年代以降、急激に盛んになり、現在まで続いています。

すぎなみ環境ネットワークでは、2009 年 6 月、ジャンクアーティスト田中梅夫さんの「蘇った廃部品展」を開きました。多くの人が来場され、好評でした。

達成感や満足感も

皆さんがよくご存じのリユースやリサイクルは、資源の節約に役立っています。

反面、その過程では、エネルギーを使う。品質は下がる。

分別を間違えると取り扱ってもらえません。「我慢する」「大変だ」というイメージがつきまとい、伸び悩みや後戻りにつながりかねません。

また、アップサイクルは、使わなくなったものの新たな出番を作るだけでなく、喜びにもつながります。

デザインを考え、材料を選ぶ。裁断し、それを縫う。仕上げのアイロンかけなど、ひとつ一つの作業が喜びにつながります。その上、手順を考える楽しさ、できあがったときの達成感、使ってもらう満足感も大きく、一度経験をすると、ますます、気力も湧いてくるようです。



「もったいない」を形にするお手伝い

すぎなみ環境ネットワークは、ごみの減量を目指し、「もったいない」を合言葉に活動してきました。そのひとつとして講座を開催し、皆さんの「もったいないという気持ちを形にする」お手伝いをしています。講座のねらいは、使って楽しめるものを作ることと、続けられることのふたつ。作品が出来上がる頃には、教室中、笑顔でいっぱいになっています。

「もったいない」を
形にする

講座例

- ☆着物や洋服のリメイク (12 回)
- ☆着物で作務衣作り (3 回)
- ☆季節に合わせた帽子作り (4 回)
- ☆裂き織り体験 (4 回)
- ☆布ぞうり作り (8 回)
- ☆身近なはぎれなどで小物作り (11 回)

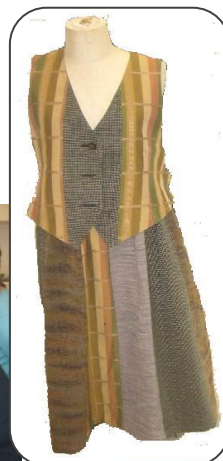
備考：() 内は 2012 年度の開催回数



着物や洋服のリメイク

毎月 2 時間の講座を開き、着物や洋服を、自分のブラウスやベストに作り直しています。わからないところを講座で教えてもらいながら、半年くらいかけて仕上げます。

「できた時の達成感が素晴らしい」「人の作品を見ると挑戦したくなる」「受講者同士で教え合っている」など、リメイクの楽しさが伺えます。「着ると楽しい」と、自作の洋服を着て受講される人も見かけます。



アンサンブル



着物で^{さむえ}作務衣作り

2 日間 6 時間の講座で、着る機会がなくなった着物を作務衣に作り直しています。教材の型紙を使い、ミシンでも手縫いでも作れます。

「母の紬で作ってもらった作務衣を着るのが好き。今度は自分で作る」「自分で縫った着物を作務衣に作り直している」「作務衣が似合う妹に作ってあげたい」など、作務衣大好きという受講者が多いようです。



作務衣



季節に合わせた帽子作り

年 4 回の講座では、古布を材料に、季節に合わせた帽子を作ります。頭の寸法に合わせ、型紙を使って布を切る。縫い目のアイロン掛けを繰り返し、1 日 4 時間かけて仕上げています。

受講者には復習を兼ね、自宅で二つ目、三つ目の帽子作りをすすめています。

「講座を受講して 18 個作った。子供、孫、甥、姪に配って喜ばれた」「あげた帽子をかぶっているのを見るのが嬉しい」「夫から注文があり、男物の作り方も教えてほしい」など。いろんな帽子にトライしたいという人が多いようです。



春



夏



秋



冬

裂き織り体験

「裂き織り」は、古くなった衣類や布団などの布を細かく裂き、麻糸などをたて糸に織り上げた布です。江戸時代、「使い切る」文化の中で発展したものです。

2 時間の講座では、簡易織り機を使ってコースターを作っています。また、足踏み式織り機で幅広に織る体験もします。

幅広の裂き織りができると、テーブルセンターやマットなども作れます。縫い合わせて紐をつけると手提げ袋になります。できあがりを考えながら織ると、楽しさも増します。

終了時、「素敵なものができた」「作る人の性格が出る」など会話が弾んでいました。



手作りの簡易織り機

コースター



足踏み式織り機の体験



手提げ袋

ちょっとひと休み

「使い切る」文化と「裂き織り」

江戸時代、貴重な木綿や絹などを「使い切る」文化の中で「裂き織り」が完成しました。

- ①はぎれを縫い合わせて、着物やこたつ布団にして使う。②擦り切れると、継ぎを当てる。
- ③布がぐたぐたになると、縫い目をほどこいて裂き織りを作る。④使い古されると、組紐に。
- ⑤使い終わった紐は、火をつけるとゆっくり燃えるので、虫よけに使い、灰は畑に。

布ぞうり作り

1 日 4 時間の講座で、ぞうりを作っています。教室の床にごさを敷いて座り、両手・両足を使いながらの作業です。

材料の木綿は受講者が持参。鼻緒の材料は、教材として準備しています。

T シャツ、浴衣、シーツ等、木綿の布を裂いて、つま先の部分から織りあげ、途中で鼻緒を取りつけます。かかとの部分まで織り、最後に前鼻緒をつけ、形を整えます。

ぞうりの完成する頃には、「履いてみよう」と笑顔の受講者。「思ったより難しかった」「準備には手間がかかりそう」などの声も。



鼻緒をつける

身近なはぎれなどで小物作り

2 時間か 4 時間の講座で、使って楽しめる小物にリメイクします。講師陣の特技を活かし、時間内で作れる作品を工夫して講座のテーマにしています。2012 年度の作品には、次のようなものがあります。

材料	作品
和布の端布	ショルダーバッグ
	おひなさま
	兜
	マカロンポーチ
	肩たたき棒
傘布 ^注	レインバック
	手提げ袋
デニム	コサージュ
	トレイ
パッチワーク	ポケットティッシュのストックボックス
あさ紐	一輪ざし

^注 壊れた傘の布を外し、一晩付け洗いをした後、釣り下げて干した布地を利用

「捨てるものが役に立つものになる」「捨てるものが出ないのがうれしい」など。受講者の喜びの声です。



ショルダーバッグ



おひなさま



マカロンポーチ



傘布製手提げ袋



デニムトレイ

達成感や満足感を伝えてほしい

「もったいないの心を形にできてよかった」のように、達成感や満足感を伝えたいと思う人をすぎなみ環境ネットワークは支援しています。

作品を見てもらいたい

毎年、秋に開催している「かんきょうアイデア展」では、使わなくなったもので作った作品や環境・自然に関するレポートを展示します。生活環境や地域環境について一緒に考え、昨年は18回目でした。3ページでご紹介した講座を受講した人がその後、2作目、3作目を作り、出品しています。

2012年度入賞のSさんは、「洋裁や和裁の経験がない私がリメイク講座を受講した3着目の作品。亡き母の羽織をリメイクしました。本当に嬉しい」と大喜び。入賞を逃したTさん。「2着目を出品。励みになった」と。



2012年度受賞作品

羽織からロングブラウスにリメイク

教えてみたい

講座を修了した人の中には「これは面白い。教えてみたい」と思う人もいらっしゃるでしょう。

すぎなみ環境ネットワークでは、講師養成講座を開催しています。養成講座を修了後、アシスタントとして活動。その後、多くの人が講師として活躍しています。



活躍するアシスタント

「もったいない」を
形にする

「講座」などに 申込みたいときは

- ★ 講座や講師養成講座の内容、開催日時等は、区報「広報すぎなみ」などでお知らせします。
- ★ 会場は、主にリサイクルひろば高井戸です。

